

日本海と日本の南には高気圧があって、ほとんど停滞しています。

今日は、日本海と日本の南に中心を持つ高気圧におおわれますが、関東地方には湿った空気が入りやすいでしょう。

このため、関東地方は曇り時々晴れ、甲信地方は晴れ時々曇りでしょう。
山沿いでは、夕方以降はにわか雨の降る所がある見込みです。

明日も、関東甲信地方は高気圧におおわれますが、上空の気圧の谷の影響を受ける見込みです。
このため、関東地方は曇り時々晴れで、朝晩は雨の降る所があるでしょう。甲信地方は晴れ時々曇りで、夜は雨の降る所がある見込みです。

関東近海は、今日は波が高く、明日は波がやや高いでしょう。また、濃い霧のため見通しの悪い所がある見込みです。船舶は注意して下さい。

【 土日のお天気 】

	12日 (Sat)		13日 (Sun)	
	天気	最高/最低	天気	最高/最低
札幌	○	25/ 14	○//◎	26/ 15
秋田	○	24/ 16	○→◎	27/ 17
仙台	○//◎	24/ 15	◎//○	24/ 18
宇都宮	◎//○	28/ 19	◎	27/ 19
東京	◎→○	28/ 20	◎→●	26/ 20
横浜	◎→○	27/ 20	◎→●	26/ 20
長野	○	30/ 15	◎	27/ 17
静岡	○//◎	28/ 20	◎→●	25/ 20
名古屋	○//◎	30/ 20	◎→●	26/ 21
新潟	○	25/ 18	○→◎	26/ 18
金沢	○	27/ 18	◎	25/ 19
大阪	○	29/ 20	◎//●	24/ 20
神戸	○	27/ 21	◎//●	24/ 20
広島	○→◎	28/ 18	◎//●	25/ 19
松江	○→◎	28/ 18	◎//●	25/ 18
高松	○→◎	29/ 19	◎//●	24/ 19
高知	○→◎	26/ 19	◎//●	24/ 19
福岡	◎→●	29/ 20	◎/●	25/ 20
鹿児島	●	24/ 22	●→◎	25/ 22
那覇	◎//●	27/ 25	◎/●	28/ 24

(○:晴れ, ◎:くもり, ●:雨, *:雪→:のち, //:時々, /:一時)

【 お天気モード 】

「 **アーネスト・サトウ その2(家族愛)** 」 2010年6月10日の日記より追加

「**遠い崖(萩原延壽著)全14巻**」を読み終わり、英国の1外交官が日本の開国から明治にかけて与えた影響の大きさと深さをじわじわと感じている。

アーネスト・サトウは、幕末期の駐日英国の領事部門の通訳として二十歳の頃に来日し、激動のアジアの中でも、際だって若者や時代がたぎっていた幕末から明治初期に活躍したドイツ系のイギリス人。イギリス生まれのイギリス人でなかったことなどから、外務省の本流である外交部での採用ではなく、通訳としての領事部に所属した。その出自による階級差は終世付きまどったが、ひたむきな向学心と清の北京経由で、日本へ派遣されたことが、その一生を決定づけた。

遠い崖は、著者のほぼサトウの日本滞在の時代と同じ年月をかけて、当時世界最強の国家の一外交官が見たわが国の国情、人情、政争にからむ人物の描写や評価、歴史を上司のオールコックやパークスに文書で報告した資料を二代の公使が本国外務省へ送った膨大な外交報告と、その報告と前後するサトウ日記や本国の父母、姉妹などの家族や知人・友人との往復日記を丹念に調べまとめたものである。

【 その2 家族愛 】

サトウは、音楽をこよなく愛し、賜暇で帰国したおりに、せっせと音楽会や美術館などを経巡っている。また、ドーバー海峡を何度も渡り、父親のふるさとドイツを初め、フランス、スイス、イタリヤなどに、長期に亘って計画的に旅行している。

それらの行動を共にしたのが、多くの場合姉であり日本で職場をともにした友人だった。中でも、ピアノの連弾は姉や同僚の奥方などと連日のように楽しんでいた。また、帰国の出迎えや日本への出発には、姉夫婦が指定の場所に出向いて、現地でコンサートや旅を楽しんでいたことが記されている。

作者が指摘しているように、サトウはサトウ家の誇りであり寵児だった。すぐ下の弟は例外だが、両親はもとより全てアーネストのことに夢中であり、音楽会も旅行も食事も寸暇を惜しむように共にしていた。

このことは父親が偉大だったことを示している。ドイツ出身ということで、本質的にはイギリス生まれの英国人とは一線を画した生活を余儀なくされていた。父はそれにうっ屈することなく、それを克服するかのように貿易や不動産で成功し財を蓄え、その多くを家族に、とりわけ自慢の息子、アーネストの教育と暮らしの糧にと惜しげもなく注いだ。

その大きな無償の愛を、アーネストはいつも忘れなかった。家族の愛が何で大切なのかは、この14巻を通して読めば分かる。理屈ではなく、親子のありかた家族のあり方と教育論とも読み取れるほどだ。ためにする教育論なんか足元にも及ばない、父から息子、息子が両親や兄弟に返す様々な愛に気高ささえ感じるほどだ。

まじめに働き得た経済力に裏打ちされたこの感性と人間性が、動乱時の幕末維新の志士たちにはなかったことかもしれない。そして、現在のわれわれにも決定的に足りないのは、家族に対する無償のおもいやりであり愛だろう。

この思いやりは、日本で時代と苦楽を共にした大使館の同僚たちにも注がれて終生変わらなかった親友がいる。もちろん、全ての同僚や上司へ同じ思いが尽くされたわけではないが、信じた友は徹底的にフォローした。そこには、ほとんど打算は感じられない。維新三傑の二人は薩州の西郷と大久保。それぞれの果たしたことは歴史に残っている。この二人にもサトウは何度も会い、開国を促し談判した。西郷には深い愛情がそこはとなく感じられ、大久保への評価は冷たく低い。そこに人間性を言うのは間違っていないだろう。

厳しい日々の外交の駆け引きの合間合間に、日本の文化を日本人よりも深く探求し、話し聞き取るだけではなく、文書も不自由なく書けた。神道に関する論文は当時の日本人の学者さえ及ばないと思えるほど、冷静な分析をと持ち深く真理を把握していたように見受けられる。寸暇を惜しみ日本各地を旅し、旅先の文化や風土に植物を調査研究しつつ研鑽を重ね、時にピアノを弾き日本の古書を漁り理解した。その大きな支えは家族に支えられているわが身の何たるか。大いなる愛はゆとりを生み出会った人たちを魅了した。

【 e 健康生活 】

「 [中性脂肪を溶かすたんぱく質\[AIM\]](#) 」 2010年6月9日の日記より

東大の宮崎教授らの共同研究グループは、[中性脂肪の塊を溶かすたんぱく質「AIM」](#)を発見し、9日付のセル・メタボリズム(米科学誌)に発表しました。

【 AIMの作用説明 】

1. AIMは、動脈硬化への関与などが知られているが、作用メカニズムは不明だった。
2. 副作用の少ない新たな抗肥満薬の候補になるとされる。
3. AIMを作れないようにしたマウスが太りやすいことに着目。AIMが細胞内に取り込まれ、中性脂肪の主成分である脂肪酸の合成を阻害することが分かった。
4. 余分に蓄積されていた中性脂肪の塊が溶け、脂肪細胞が縮小した。

宮崎教授の話)

もともと生体内にあるたんぱく質で、脂肪細胞のみ作用するため、多くの抗肥満薬にみられる中枢神経系の副作用は認められない。

(農業新聞6月9日 より編集)

【 感想 】

肥満気味の人やメタボの人たちにとって、いや、それを当て込んで虎視眈々としている製薬会社の関係者は、このニュースや論文で腹いっぱいになっているかもしれませんね。

薬に頼らなければならない状況にある人でなければ、健康的な肥満対策ははっきりしています。適度の運動とカロリーバランスをキープすることです。すなわち、食べて体に入れるカロリーよりも運動で流す汗とカロリーの方を少し多くすることでしょう。肥満で怖いのは糖尿病。

ここは1つ、「まんじゅうこわい」なんて言わないで、こまめに体を動かしましょう。但し、汗は汗でも冷や汗はNG。こちらの汗は心臓の負担が大きいです。仕事が終わったら、テレビを見ながらスキヤットや腹筋でもしながら、強いジャイアンツを応援するのが一番だとか。

マイ・ソリューションのご案内)

健康な体の基本は水素豊富水 **新元祖活性水素くん**

【 **WISからのお知らせ** 】

***** 天気で元気！ *****

世界初 「ソリューションする気象会社」

防災メールなら **地震番**

<http://www.wis-x.co.jp/jishinban/jishinban.html>

トータル節水システム (**経費節減効果NO1**)

http://www.wis-x.co.jp/kachiaru/kachiaru_shouhin.htm#echoj

たのしい競馬に **「馬場コンディション情報」**

<http://babacondition.sblo.jp/>

減災とセキュリティ **「ミスター防災」**

<http://mrbosai.sblo.jp/>

取れたて安全・安心農産物 **「直売所NOW」**

<http://chokubaisho.sblo.jp/>

天気と健康のお話 **「ウェザー&ビューティ」**

<http://weatherandbeauty.sblo.jp/>
